



がん治療前からの口腔ケアのすすめ

公益社団法人 日本歯科医師会(2016.3)

定期的に通院されている方も、しばらく通院されていない方も、お口の中の環境を整えるため、がん治療を始める前に歯科医院の受診をお勧めします。

お口の中には多くの細菌が生息しています。普段は悪さをしない細菌も、手術や抗がん剤治療、あるいは放射線治療を行うことで一時的に全身の抵抗力が弱まったとき、肺炎や重症の口内炎など様々な合併症の原因となって、手術後の治りが悪くなる可能性があります。しかし、体の治療を始める前に、あらかじめお口のケアを行い、細菌数をできるだけ少なくすることで、合併症のリスクを減らすことができます。お口の中の細菌は、その大多数が歯の周りの汚れ（歯垢や歯石）の中に潜んでいます。お口のケアでは、専用の器具を使って歯の周りの汚れを除去するとともに、セルフケアについてもアドバイスします。

術後の肺炎のリスクを下げます

全身麻酔で手術を受ける患者さんは、人工呼吸器のチューブが口から喉を通して気管の中に挿入されます（気管内挿管といいます）。この際、気管のチューブを通して肺に入り込んだ口の細菌が、術後肺炎の原因となることがあります。

気管チューブから歯を守ります、

チューブを気管に入れる時に、歯を痛めたり、歯が抜けてしまうことがありますので、手術前に歯の固定をしたり、保護用マウスピースを作る場合もあります。

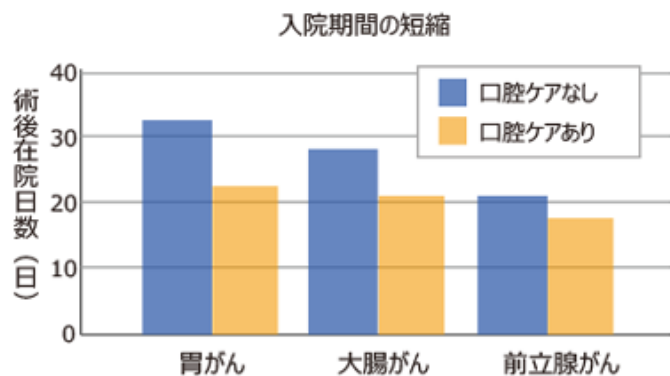
手術後の食事開始をスムーズにします

むし歯があれば応急処置をして、口の中をできるだけ健康な状態に保つようにします。あらかじめお口の状態を改善しておくことで食事の際の苦痛を軽減して、早く自分のお口で食事をすることができ、早期の回復が期待できるようになります。

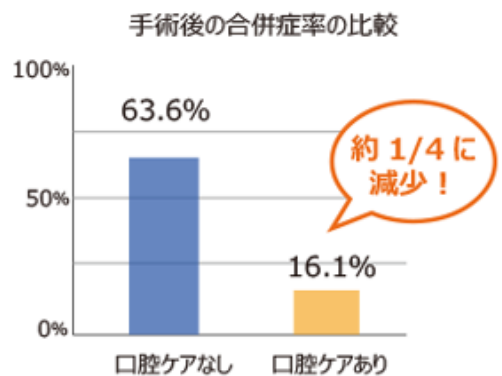
手術後の合併症のリスクを下げて、入院期間が短縮されます

手術前に口のケアを行い細菌を減らしておくことによって、手術後の傷の感染や肺炎などの合併症を減らすことができ、入院日数が短縮されます。

(入院期間の延伸は、術後合併症が原因のひとつです)



参考資料：大西哲郎氏「看護技術54」



参考資料：大田洋二郎氏「歯界展望」

抗がん剤治療や放射線治療に伴うお口の中やあごの骨のトラブルが減少します

抗がん剤治療や放射線治療の影響を最も大きく受けるのは、口腔内の活発に分裂、増殖している細胞です。歯ぐきや口、喉の内側の皮膚（口腔粘膜）は、感染症などの菌が体内に侵入するのを防ぐため、絶えず分裂、増殖し、防御を行っています。しかし、これらの細胞が破壊されると、防御が効かなくなり、ほんの小さな傷でも粘膜炎や口内炎といった炎症が引き起こされ、口腔内が痛むことがあります。

また、だ液の量を減らす副作用もあります。だ液には消化や自浄を助ける作用があるため、減ってしまうと虫歯になりやすくなるほか、食物を摂取する、飲み込むこと、味覚などに障害を生じさせることがあります。薬剤によっては顎の骨を壊死させるものもあります。このような状態が続くと、食べられる物の種類が制限され、栄養状態が保てないなどの体力が低下して全身の健康に悪影響をおよぼすことも考えられます。

